

平成22年度通常総会会長挨拶

平成22年5月28日

平成22年度の通常総会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、何かと、ご多忙のところ本総会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から、全建の事業活動・事業運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本日の総会におきましては、平成21年度事業報告及び収支決算、並びに平成22年度事業計画及び同収支予算についてご審議をお願いいたしますとともに、また本会の役員改選についてもご審議をいただくことになっております。なお、平成22年度の事業計画、収支予算の概要については去る3月の評議員会においてご説明申し上げ、概ねその内容についてはご了承をいただいているところでありますが、本日改めてご説明申し上げますのでよろしくお願いいたします。

さて、平成21年度の我が国経済は、リーマンショックに端を発した世界的な金融危機の影響等から、国に於いても産業界においても、生き残りをかけた、大変厳しい状況に終始しました。

建設業界においては、前政権による21年度当初に出された大型補正予算と前倒しなど、国の数次にわたる緊急経済対策等により一部に底打ちの兆しが見られたものの、建設投資の3分の2を占める民間需要の、それをも上回る急激な冷え込みにより、建設市場は急速に縮小し、地域を支えてきた老舗といわれる長年真面目に努力をしてきた企業の倒産が相次ぎました。

このような状況の中、昨年8月に政権交代がありました。新政権では「コンクリートから人へ」をスローガンの下、人口減少、少子高齢化、そして財政の悪化という3つの懸念から、公共事業の極端な抑制政策が打ち出されました。中でも、平成21年度補正予算の執行停止と、平成22年度一般会計予算の公共事業関係費について前年度比18.3%減少と、過去最大幅の削減となっており、我々を取り巻く環境は更に厳しさを増し、このままでは再び自殺、失業、そして倒産が増加するのではないかと大変懸念をしております。

また、新政権は、所管大臣への陳情や要望等について大幅に制限をし、「政治主導」を打ち出したことから、毎年行っていた予算要望や、昨年秋に行ったブロック会議についても今までとは異なった対応にならざるを得なかったという、誠に波瀾に富んだ一年でありました。

自然災害が多発する我が国において、脆弱な国土から国民の安全・安心を確保するため、我が国の国際競争力の維持・向上のため、そして環境問題や老朽化する社会資本の維持・修復等、対処すべき社会基盤整備事業は数多くあり、計画的・継続的な社会基盤整備の推進は喫緊の課題であります。

建設業は、これら社会基盤整備の担い手であると共に、日常的に地域の人々の安全・安心な暮らしを守り、地域の基幹産業として、地域経済を支え、雇用を確保するなど、その使命は変わることなく、今後もこれら社会的使命を果たし続けなければなりません。

特に危機管理の観点については、その地域の実情を熟知しているからこそ出来る活動を積極的に行う、という重要な役割を担っており、その責務は十分に果たしてきたという自負を持っております。今後ともしっかりとこの使命を果たしていくことが何よりも大切であると感じてお

ります。

現在、宮崎県での口蹄疫被害への対応については、永野会長の陣頭指揮のもと、会員企業が全力をあげて被害の拡大防止に取り組んでおられます。これは、畜産農家の皆さんが涙する中で穴を掘り、埋める作業を不眠不休で行っている本当に大変な作業です。今まさに地域を支える建設業の社会的責任を果たされておられることに、深く感謝と敬意を表する次第であります。全建においても、宮崎県協会への義捐金という形で、側面ながら協力させて頂きました。会員のみなさま方のご協力、誠にありがとうございました。

本会としましては、「建設業を経済的、社会的、および技術的に向上させ、建設業の健全な発展を図り併せて公共の福祉の増進に寄与する」という事業理念に則り、国民・社会からより信頼される建設業を目指すとともに、真に汗をかき、努力している企業が存続し、成長できる産業、そこで働く人々が豊かな生活を送り、やりがいと誇りを持てる産業、そして、若者が将来を託すことができる産業を目指し、日々努力を続けなくてはならないと考えております。

そのためには、適正な事業活動に取り組むことは当然ながら、「建設企業（団体）行動憲章」の趣旨に則り、法令遵守、コンプライアンスの徹底と企業の社会的責任への取り組みを一層強化し、各都道府県建設業協会と一致協力し、事業活動を推進すべきと感じております。

本日は、総会終了後、国会議員、関係省庁、関係団体の幹部の方々のご臨席をいただき、懇親パーティーを開催することといたしておりますので、引き続きご出席を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、7月の参議院選挙が近づいて参りました。我々

建設業界の一番の理解者である脇さんを今一度国政の場でご活躍いただけるよう、全身全霊をあげて努力すべきであると思いますので、皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、各県協会、そして会員企業のますますのご活躍とご発展を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。